

お彼岸

酒生文弥

秋のお彼岸がめぐってまいりました。きびしい残暑も心地よい涼風に変わり、ご親族や友人と、郷愁に誘われるままにご先祖のお墓まいりに集われ、こころ温めあうひと秋を分かち合ってください。

彼岸とは、彼方の岸辺。どろどろして苦しみや悲しみも多い此岸、つまりこちらの俗世の岸辺を越えた、穏やかで安らぎに満ちたあちらの「永遠のお悟りの世界」のことです。英語にも、この世を“*This side of forever* (永遠のこちら側)”と呼ぶ表現がありますが、農耕中心だった日本人は、地べたばかり見てあくせく働きながらも、春の田植え前と秋の刈り入れ前に、晴れ渡った青空を見上げて、逝きし人々の労苦や *Something Great* (おおいなる何者か)の恵みに感謝の想いを捧げてきたのです。

お日様が、まっすぐに東から昇って西へと沈む春分と秋分の日、たおやかな夕陽の果てに、浄土を憧憬することは、簡単で最高の(洗淨心垢にころの垢を洗い清める)の行でしょう。

人は誰も、いつかは此岸を去らねばならない定めですが、逝きし人々みな仏となられて、直ちにこの世に還って来られ、目には見えないけれど陰のちからとして守護して下さっている。一昔前にヒットしたハリウッド映画『ゴースト-ニューヨークの幻-』ご先祖様や「大いなるちから」の振量のお恵みの只中に、今、この命を生かされている私たちです。お彼岸を大切な方々と過ごされて、どうか「お陰様」の功德をこころゆくまで堪能なさってください。

(光寿院釈文禰)